

特集①) 長谷工アーベスト「首都圏:住みたい街調査」
～人気の街から考える、今後の街選び・住宅事業への影響～

P.1~11

■ ■ 2023年8月:特集レポートダイジェスト ■ ■

【1】-①② 2023年首都圏『住みたい街(駅)』総合ランキング

【2】-①② 人気の街の要素・人気の街の特性

～ランキング上位30の街の“人気の街の要素”から考える～

【TOPICS: I】「23区への通勤比率」が高い郊外市区とは？

【TOPICS: II】「街の人気の変化」による効果とは？

【まとめ】

【資料①・②】 2023年以降、首都圏の主な再開発事業等の一覧

■トレンド調査TOPICS■

◇住宅購入の情報収集における『SNS』の利用実態

特集②) 地方都市研究 vol.8

P.1~12

～地方圏:2022年の新築マンション動向と直近のマーケットトピックス～

【1】地方圏:2022年の新築マンション動向

【2】地方圏:直近のマーケットトピックス

TOPICS①：“中核市以下”での販売事例

(長谷工アーベスト販売提携事例より)

TOPICS②:事業主様各社の動き

【まとめ】

～次号(2023年9月)の予定～

◆特集レポート

・(仮)2023年 秋商戦のマーケット動向

・(仮)ターゲット層研究 ~共働きニーズを探る~

特集①)長谷工アーベスト「首都圏:住みたい街調査(2023年)」
～人気の街から考える、今後の街選び・住宅事業への影響～

2023年の「首都圏:住みたい街(駅)」調査において、『武蔵小杉』『川崎』『調布』等の23区に隣接する郊外中核駅(街)が、昨年比で大幅にランクアップする結果となりました。

ランキング上位30の街をみると、【交通利便性】【生活利便性】【資産性・発展性】が他の街に比べて高く、これらが“街の人気”を分ける大きな要素となっています。

本レポートでは、人気の街の要素から、以下の項目について分析。

今後の、街選び・住宅事業への影響について考えました。

<分析項目>

I :「23区への通勤比率」が高い郊外市区とは？

II :「街の人気の変化」による効果とは？

資料:2023年以降、首都圏の主な再開発事業等の一覧(マンション事業)

特集②) 地方都市研究 vol.8

～地方圏:2022年の新築マンション動向と直近のマーケットトピックス～

2022年の全国の新築マンションの年間供給戸数は約7.3万戸(前年比-9%)。首都圏・近畿圏・東海圏の3大都市圏で供給戸数が減少する中、地方圏※は約1.9万戸(同比+10%)と大幅に増加、供給シェアは26%(同比+4p)まで上昇。地方圏においても価格上昇が進んでいるが、新築マンションの供給は順調に行われています。

本レポートでは、こうした地方圏のマーケットについて、ブロック別で「供給戸数」「商品(価格・単価・面積)」を確認。また、トピックスとして「“中核市以下”での販売事例」「事業主様各社の動き」について整理、まとめました。

※首都圏・近畿圏・東海圏を除く地域を定義

